らじかる



第10号

エマとサンジカリズム

今井順子

本誌9号で大正期の日本へのエマ移入を紹介したが、これを補足しておくと、エマの著書に『ロシアにおけるわたしの幻滅』というのがある。これは大正13年(1924年)に司法省調査課によって訳出され、『露西亜事情』というタイトルで刊行されている。内容、時代背景、著者、訳者を考えるとき、まことに興味津津たるものがある。なお、明治40年2月1日号の『平民新聞』にもエマの名前が出てくるが、これが日本での初出であろうと推定される。

エマをサンジカリスと規定することは、ソレルをアナキストと称しにくいと同様、あまり適当でないようである。アナキズムとサンジカリズムにはやはりなんとなくニュアンスがあるように思われる。

エマの自伝『わが生涯を生きる』は前世紀と今世紀をまたにかけた約40年間の自伝(※)であり、当然のことながらその視野にはサンジカリズムがある。自伝から彼女のサンジカリズム観を析出することも可能であるが、直接的にそれを論じたものとして、『マザーアース』誌の1913年1、2月号に発表された論文「サンジカリズム。その理論と実践」がある。同誌にサンジカリズムを扱ったものとしては、他にH・ハーヴェルのものがあるぐらいできわめて稀少なのは、彼女や同誌が労働運動と密着していなかったせいではあるまいか。

エマはサンジカリズムの真の、もっとも重 要な意味は革命的な労働哲学であるとする。 エマがサンジカリズムに接触したのは1900年のパリにおけるアナキスト会議であった。帰国して彼女はサンジカリズムの思想、とりわけ直接行動とゼネストを宣伝する。

「サンジカリズムの究極の目的は、現在の 中央集権的、権威主義的、非道な国家から、 経済的、社会的自由の路線にそって、労働者 の自由な、連合的なグルーピングにもとづく 社会へと、社会を再建することである」。この 目的は「現存の諸制度をくつがえすこと」、「労 働者を発展させ教育し、彼らの連帯の精神を 養成すること」によって達成される。「サンジ カリズムは、本質において、アナキズムの経 済的な表現である。サンジカリストは苦い経 験の結果として反議会主義であって、政治機 関に背を向ける。サンジカリズムが採用する 手段として主なものは「直接行動、サボター ジュ、ゼネスト」である。「ほとんどすべての 指導的なサンジカリストは、自由な社会は自 発的な連合を通じてのみ存在することができ るということ、その究極の成功は、連帯と万 人に対する経済的福祉にもとずく新しい社会 配置でもって賃金制度にとりかえる労働者の 知的、道徳的な発展に依存するであろうとい うこと、でアナキストと意見が一致するであ ろう。これが理論と実践におけるサンジカリ ズムである」。

このように、エマはサンジカリズムをアナキズムの経済的側面、補完物ととらえているようである。

* 刊行年から知られるように、スペイン 革命へのエマのかかわりには触れられてお らず、R・ドリノン、R・ロッカーなどの 著書を俟たねばならないが、もっぱら後方 における支援、救援活動に集中していたよ うである。

今井さんの"エマ"に寄せて

一訳者より一

(自分は彼女の小伝を読むにあたって、自分のもった大いなる興味と親しみと熱烈なある同情と憧憬を集注させて、いろいろな深いところから来る感激にむせびつつ読んだ。) 「女性解放の悲劇」

-大杉栄選集・無政府主義の哲学Ⅱ-

"女性解放の悲劇"についてのご感想、興味深く拝見しました。これ迄に寄せられたものを要約すると大体貴女のと一致しますのでここでご再考を願いたくペンを執る次第です。 1. エマには思想がない。

随分手厳しい批判ですね。上掲の伊藤野枝の 感想と合わせてみますと、時代の移ろいを覚 えます。ひたむきに情熱を傾けてエマを師と 仰ぎ、自分のアナーキズムを深めようとした 野枝の素直さは今の人には疎遠なのでしよう か。それともそうした没批判的な読み方は溺 れること、自分を失うことで、対象にノメリ こむ悪癖だとするのでしようか。もし私達が エマに思想がないとキメツケるならそれに代 るものを呈示しなければなりません。クロは どうだろう。クロには科学的アナーキズム思 想がある。でもそのクロは"もの書き"のアナ ーキストだと批判されたのではないでしょう か。またまたここで思想とは何か? をあげ つらうと長くなりますので、簡単にいいます が貴女の認める思想とはデカルト的方法論に 従って、単純なものから複雑なものへ、仮説 をたて、それを証明して公理へ引きあげると か、また普遍的一般性からえんえきして個別 的なものを説明するとか、現実の経験を理論 へ昇化させまたその逆を行うとか、要するに ロゴス的論理に従った表現が思想だとされる なら、エマにそれが少いのを私も認めます。 "行動は感情から出る"(ショーペンハウア) もしそうならエマはまさしく行動の人でした から

2. エマの生きざまが問題だ。遊説のメモ が残っていたり、"ロシアに於ける私の幻滅" を商業出版社に売ったり……。

エマに思想がなく生きざまも気に入らない としたら後に何が残るでしようか。人が他人 の生きざまを問題にするのは、自分がそうあ りたい、またはそうあってはならないとする 立場がらの批判だと思う。そこで、ではエマ は一日15時間働き1弗以下の給金で生活する コルセット工場の女工であるべきで、アナー キスト活動に専従すべきでなく、せいぜいヨ ハンモストの手伝いをするのが適当だと言う のでしようか。もしそうなら貴女が感動した、 "ロシアに於けるわたしの幻滅"は書かれなか ったでしようし、女性の権利についての発言 と行動、更にあの本を商業出版社に売って、 300ドルを得、ロシアに捕われの身となってい たヴォーリン、マフノ、マキシモフ、その他 を救出する助けに使いはしなかったでしよう。 (彼女は本の出版につき、マラテスター、ロ ッカー、ネトロウのすすめに依っている。)エ マは生涯に亘って、少々の蔵書の他に財産は なかったと言われています。(参照 "Rebel in Paradise")彼女が服や靴を新調するのは講演 会に出るためでした。その点、彼女はプロで す。お客様に自分の乱れたさまをお見せしな いよう心懸けているのです。そしてさような アナーキズム運動の展開の仕方一講演会ーパ ンフ販売一接客一イン タビュー街頭集会etc は一つのパターンとして米人社会の非政治的 政治活動であれば、それを生きたのがどうし て批難されるのでしようか。そこで有名人に なったのが悪いとすれば、Living my lifeで彼 女は答えています。"わたしの才能で有名にな ったのではないのです。きっと大衆はわたし に自己の代弁人をみつけたのでしよう。"

私はむしろ彼女の講演メモが示すようにお 座なりな一席をブツのでなく、学術的とでも いえる詳細な腹案作りこそ、勉強家としての 彼女、行動の合い間によくぞそこまでと感心 するのです。わが日本においてもエマのやっ たと同じ運動形態は平民社運動にみえます。 賢い人はあの運動も知識人の独りよがりで、 うしろを振りかえったら、"労働者" はむろん "民衆"は一人もいなかった(山川均:ある 凡人の記録)と伝えていますが、これを受け て大衆運動といい情宣というのを始めても事 情はきっと同じでしよう。〔現在の政党運動を 考えて下さい。〕大衆は啓蒙という名の教訓に はあきているのです。

貴女のおっしやる意味を察しますと そん なのじゃなく、民衆のひとりとして、労働者 のひとりとして、生産点で運動の輪をひろげ たいお気持のようです。それが今後どう展開 するか予断や臆測は許されません。現代の聖 女といわれるシモーヌ・ヴェイュはエマの真 似のできないような詳しい労働事情のデータ を工場の労働から得て報告しました。それは それで私達に裨益しています。ただ私が申し あげたいのは、他人の生きざまに兎角の批判 を加えるのは自由だが、自己と他を混同しな いように、有限である場と時の制約も考慮し たいと言うことです。人間の大きさは制約が あって始めて理解されます。それともアナー キストはそんな制約をぶち破るために生きる のだと力んでみますか。

シモーヌのメディタアシオン(瞑想録)に 美しい言葉がある筈です。それはパスカルを 始祖としますが"すべての思想は情念から始 まる。"私はこの情念の現われの一つが感動で あり、それ故、野枝の読み方は決して間違い じゃないとするのです。貴女の考証はいつも 有益です。深謝。

(付記) この四月に亡ったリリアン・ウオルフ女史(99才)は訳書の出版を喜んで呉れ、私信にエマのことをa good writer and a fine woman (よい書き手でいい女) でしたと回想していました。

*1 明治政府は民衆レベルの正常な非政治 的政治活動一言論・出版、人と人の出逢 いによるコミュニケーションをことごと く弾圧しました。その為政治活動でさえ 満足に育たず、例えば党首や指導者を政 府が抱きこみ一例は自由党の板垣とその 一統にみられるような体制側へ解消して しまうのです。山川均の発言は"方向転 換論"の時代のボルシェビキ宣言とみて いいでしょう。 *2 エマの主体に沿っていえば、エマは自分の制約一社会的、性的、政治的一をぶち破って生き抜きました。しかし客観的に評価する場合は、彼女の時代、社会、習慣等が当然考慮されなければなりません。エマはマフノに加担せず、クロンシュタットではおろおろしていた。するかしないかはエマの選択であり、これを批難するかしないかは読者である私の選択に属します。つまり自己の選択を他者に押しつけるとか、それをしないからアナーキストではないどいうようなきめつけ方は天に向って唾するようなものです。

P・エルツバッハー 『アナキズム』によせて(5)

坂入純二

次にエルツバッハーとアナキズムの第2の 接点を簡単にみておこう。

論文「アナキズム」は『政治学便覧』第1巻(ベルリン・ライプツィヒ、1912/13年)に発表された。これはさほど長くはない論文であって、著書『アナキズム』よりもはるかに著者のアナキズム観が打ちだされているだけでなく、マルクス主義(但し、この用語は使われておらず、社会民主主義が使われている)とアナキズムの異同、アナキズムの諸パラダイムの発展継承にも筆が及んでいる。後にこの論文を詳細に検討する機会があろうが、骨格は次の通りである。

- 1. アナキズムの本質
- 2. ゴドウィン、シュティルナー
- 3. プルードン、バクーニン、クロポト キン
- 4. トルストイ
- 5. アナキズムの諸傾向と諸展開
- 6. 現代のアナキズム
- 7. 自然科学的アナキズムの批判
- 8. イデオロギー的アナキズムの批判 参考文献が二冊あげられている。つまり、 ネットラウ『アナーキー文献』と自著『アナ キズム』である。この両著だけが、「かなり包

イデア出版案内

新 刊「アーサー・モイゼ風刺画集」

モイゼのアナキズムを優しく愛しんでいる熱望は怖ろしい権力の敵対的な権威と明暗をはっきりと染め分けている。彼の画にはなにか謎めいた、それでいて甘 業な頌歌の世界を出現させている。そこ には自由の風土を意味するモラルが完全 に美術の世界でもって創造されている。 A 4版23頁 限定 240部 内国内売 140部 定価 980円

^{絶賛好評発売中} 「女性解放の悲劇」エマ・ゴールドマン著

本書は帝政ロシヤを遁れてアメリカに 渡り当時の世界の耳目を衝動したピッツ バーグの大ストライキにあって、黄金魔 カーネギー会社の責任者フリックを射殺 せんとして果さず捕はれ、二十二年の刑 に処せられたバークマンとの苦難の記録 であり、エマの自由への欲求、万人の幸 福のために間断なき犠牲の精神には、高 き理想の新世界が展開されている。

定価送料共¥ 750

括的な資料の知識にもとずいている」とされている。

ここで論じられた 6 人のアナキストは哲学的基盤において二分されている。「ゴドウィン、シュティルナー、プルードンのアナキズムはイデオロギー的アナキズムであって、倫理的(もしくは、シュティルナーの場合は反対に反倫理的)な基盤をもっている。次に、バクーニンとクロポトキンの場合、アナキズムは突如として自然科学的となり、国家の廃止を要求するだけではなく、その没落を予言している。ついで、トルストイのアナキズムは再び断固として旧来の倫理的な基盤をとっている。

それ以外にも分類が試みられているが、後 論することにして、ここでは著者のアナキズ ム観の結論だけを訳出しておこう。

「アナキズム、つまり、国家は存在理由を もってはいないという教説は大胆かつ崇高な 教説ではあるが、謬説である。……アナキズ ムの意義は、究極的には、それが国家の必要 性についての私たちの確信を堅固にし、深化 したというところにある」 (傍点は原文) (この項つづく)

グラシアー家を囲んで

7月14日雨の夕景新宿の喫茶店でグラシア 夫妻と10才になるマヤ嬢を囲み歓談した。 ヴエ ネゼラ在の氏はルター誌の発行者、スペイン 内戦の経験者で初老の人だった。

夫人は温和で女性の出席者と会談を楽しむ様子。氏は南米のスペイン人の活動が被差別のインディオイと連携しつつある。ポルトガル政変では本、パンフを送り支援した。スペインでは地下組織が活発だと、運動の現況をこもごも語る。最後のスピーチは日本で受けた歓待を謝し、東京でこれだけの人が集まるのだから運動の発展を祈ると結んだ。私はフランコ将軍の病状でスペインの政情は流動的である。貴方が故国に還れて活動の機会をもたれるようにと答えた。その時の彼の眼の輝きが忘れられない。(莫空人)

1974年2月1日発行 編集者 櫻井 博 発行者 はしもとよしはる 発行所 東京都新宿区東大久保1-464 松喜ビル イデア出版 郵便番号160 TEL 354-1039 振替 東京64906 年間購読料 300円